

○13番 奥田風咲君

今元中学校3年、奥田風咲です。私は、農業体験イベントの実施について、質問します。

私の祖父は、ビニールハウスでサツマイモやジャガイモ、トマトやトウモロコシなどの野菜を栽培しています。小さい頃から、野菜を育てる過程を身近で見ることによって、作物を育てる大変さや、共同作業の大切さを祖母から教わってきました。大切な思い出のひとつです。

私は、多くの人に農業の大切さや大変さを知ってもらおうきっかけとして、農業体験イベントを提案します。イベントの周知方法は、市役所から学校にプリントを配布したり、ホームページや広報誌で募集するなど、幅広い年代の人に情報が伝わりやすい方法で行い、また、イベント内容は、市の特産品のイチジクや、田んぼが多く存在しているので、お米などを対象としてはいかがでしょうか。

例えばお米だと、3月に種まき、5月には田植え、9月には収穫といった流れで、時期ごとにそれぞれ開催します。また、収穫したものを駅に露店を出して販売することで、駅前の活性化につながると思います。

そこで、現在開催されている農業体験イベントがあれば、お聞かせください。

○前半議長 平原柑奈君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

奥田議員の御質問にお答えいたします。大変ありがたい、心強い御意見だと思っています。農業人口がどんどん減っていていますので、その中で、こういった御質問は、大変ありがたく思っております。

まず、行橋市では、小学校11校のうち8校で、そして中学校6校のうち3校で、農業体験に関する取り組みが行われております。その内容は、例えば稲を植えたりだとか、それからお米を実際に刈ったりだとか、あるいは芋の苗を植えて、そして最後に芋掘りを行ったりだとか、それから野菜の鉢植え、そういったものを行われております。こういったものは、地元の農家さんやPTA、また高校、例えば行橋高校の先生、あるいは学生さんが協力してくださって、学校と地域をつなぐ交流の場ともなっております。

また、イチジクを対象とした農業体験イベント等も一部の小学校でありますけれども、行われております。

その他にも、もち米を田植えから収穫まで行いまして、そのもち米で餅つきをして卒業生に贈ったり、梅ちぎり体験をして地元で梅ジュースを販売するなど、様々な特色ある取り組みも行われているということでもあります。

市が主催というわけではありませんけれども、例えば学校、教育委員会などで行われたり、あるいは小中学校ではありませんが、高校などでも行われたりしております。

また、その他にも、例えば行橋高校さんなんかは、特に学園祭、文化祭ですか、そういったようなところで例えば学生さんが作った物を販売したり、あるいはこの辺で言いますと、農協さん、JAさんのイベントなんかもありますね。

それから最近ですと、子育て世代の方々が田植え、それから稲を育てて、そして稲刈りまで、そういったようなイベントを自主的に複数のグループさんがなさったりもされております。また、そういった農業体験だけではなくて、実際に田んぼで泥んこになって遊ぼうだとか、そういったような体験なんかも実際に実施されています。こういったものも奥田議員がおっしゃるようなひとつの体験、イベントなのかなと思います。以上でございます。

○前半議長 平原柑奈君

奥田議員。

○13番 奥田風咲君

ありがとうございました。現在行われている取り組みについては、分かりました。

さらに幼稚園生や保育園生などの小さな子どもたちを対象としたイベントも併せて開催することで、子どもたちの豊かな感性を育む機会や大切な思い出づくりの場を提供することができ、また農業に関心を持ってもらうことで後継者の育成にもつながると思いますが、執行部はどのようにお考えでしょうか。

○前半議長 平原柑奈君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えいたします。奥田議員おっしゃるように、実際にこの農業体験といったものが小さなお子さんたちの心身の発達に好影響を及ぼすことや、食育の視点、また地域の農業への愛着、また職業としての農業への関心につながるということにつきましては、そのとおりであると思っております。

市内にあります24のすべての幼稚園・保育園で実際に農業体験の取り組みが行われているとのことです。

24の全ての保育園・幼稚園で行われている内容ですが、例えば田植えのみが9園、それから田植えから稲刈りまでが6園、芋の栽培体験では、苗付けのみが11園、水やりなどの日常管理までが5園、芋掘り体験が14園となっております。また、野菜の栽培体験の多くは、園で畑を使って実施されておりました、苗付け体験が22園、水やりが19園、収穫体験が22園となっております、すべての園で、農業体験を通して子

どもたちに土いじりの楽しさや、収穫の喜びを知ってもらえるよう積極的な取り組みが行われているとのことでございます。

行橋市では、新規に就農を希望される方々を対象に相談会も開催しておりまして、JAさんや福岡県とも協力して可能な限り支援を行っております。

今後につきましても、農業体験等を含め、多くの方に、農業に興味をもっていただけるような取り組みを続けてまいりたいと思っております。

また、ここはですね大変重要なんですけれども、率直に言うと農業でしっかりと食べていけるか、稼いでいけるかといったところが、やはり重要だと思います。ですから、そういった意味では、やはり私たち消費者も、やっぱり安い物のほうがいいじゃないですか。ましてやっぱりなかなか大人になったらまた分かりますけれども、稼いでいくということは、大変なことなんですよね。そういったところを農業者の皆さん方にもやはりしっかりと稼いでいただく、そういったところも我々自身も考えていかなければいけないのかなと、個人的にも思っております。以上です。

○前半議長 平原柑奈君

奥田議員。

○13番 奥田風咲君

御返答、ありがとうございます。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。